

理事長所信

一般社団法人 摂津青年会議所
第43代理事長 岡本 博人

【はじめに】

オイルショックによって経済成長率が戦後初めてのマイナス成長となった1974年。高度経済成長の終焉を迎える時代の転換期に、志高き青年達が集い摂津青年会議所は誕生しました。以来42年間に渡り「明るい豊かな社会」の実現をめざし「奉仕・修練・友情」の三信条を掲げ地域の発展と自己研鑽を続けてまいりました。変化を続ける時代に、変わらぬ創始の志を受け継いでこられた先輩諸兄の熱い想いと情熱により、摂津青年会議所の運動を展開してこられたことに改めて感謝と敬意を払うと共に、私が本年度の理事長を拝命し志を引き継ぐことに誇りを感じております。

【会員拡大】

近年、青年会議所にとって会員拡大は重要な課題となっており、摂津青年会議所もその例外ではありません。人口減少に伴う生産年齢人口の減少や景気の後退など様々な要因を挙げることが出来ますが、このまま減少の一途をたどることは組織の存続も危ぶまれることとなります。しかし、会員拡大は組織を維持するためだけに行う活動ではありません。地域を想い、地域に貢献する人財を増やすことは、公益を資する青年会議所の重要な運動の一つです。会員拡大はメンバー一人ひとりが当事者としての気概を持って、積極的に取り組み、志ある人の和を広げることが組織の存続と「明るい豊かな社会」の実現の力強い一歩へとつながります。

【和】

私たち日本人が古来より受け継いできた「和の心」。他を慮り、個人を重視するのではなく、集団における秩序や調和、また礼儀を重んじることは、私たちの生活の中に自然と存在してきたように思います。組織においても「和」は必要不可欠です。何かの計画を実行するとき、互いを信じて取り組んでいると、初めは不可能かと思えたような課題でも、信じられないほどの結果をもたらすことがあります。調和は、集団を一体化し、単なる要素の総和を越えた、創造力を生み出すのです。

【明るい豊かな社会を目指して】

「明るい豊かな社会」の実現を掲げる我々は青年経済人として、社会のリーダーとして数年後のビジョンを描き、語り、行動しなければなりません。地域の子供たちに見せる背中は一人の大人として、親としていつでも希望に満ち溢れてなければなりません。地域の宝である子供たちは親や教師をはじめとする身近な大人たちの姿を見て、言葉を聞いて成長していきます。子供が未来に希望をもてるかは、大人がどんな背中を見せるかに懸かっています。我々は受け継いできた「和」の精神を言葉と行動で魅せ、未来に希望がもてるひとつづくり、まちづくりの運動を発信してまいります。

我々青年会議所は42年もの時間をかけて個では成しえない組織の「和」の力でまちづくり、経済、教育、青少年育成など様々な分野で運動を発信してまいりました。その運動を通し行政、諸団体、地域とのつながりを築き、様々な問題を乗り越え、地域の先導者としての役割を担ってきました。

「青年会議所しかない時代から、青年会議所もある時代へ」という言葉をよく耳にするようになりました。各団体が地域へ想いをもってそれぞれの手法で個性を出してまちづくりに取り組んでおられます。多様化が進んでいることはこれまでまちづくりの先導者として運動を発信してきた我々青年会議所の先輩諸兄の功績であると誇りに感じております。

そして今、私たちがすべき事は、まずはこの地域の歴史と現在をしっかりと認識し、その責任と偉業を理解し未来を切り拓いていかなければなりません。まちの発展は自治体だけでも企業だけでも個人だけでも、もちろん青年会議所だけでも成し得ることはできません。このまちのために活動ができる感謝とつながりの大切さを思いながら、「青年会議所もある時代」に「青年会議所にしかできない」運動を通し、新たな価値の発見と魅力の創造ができるよう目指してまいります。

また、我々日々の運動や想いは自分たちの中できとどめるのではなく、この地域に発信しより多くの方々の共感を得ることで、「明るい豊かな社会」の創造の運動推進に繋がります。広報活動では、我々の運動と想いをより多くの方々と共有すべく、時代に即した方法で迅速かつ正確に発信してまいります。

【結びに】

同じ志を持ったメンバーが英知と勇気と情熱を集結させることが運動になり、より大きな力になります。地域の未来を担う先導者としての氣概とJAYCEEとして誇りを持って、「和」のもつ力信じ仲間とともに切磋琢磨し、一歩ずつ歩みを進めます。

自分を育ててくれたまちのため、このまちのひとのため、そして自分が守るべき家族や会社のため、想いが強ければ強いだけ人は成長を続けることができます。無駄な努力など存在しません。自分たちの可能性を信じて踏み出そう2017年！